

公認会計士三田会

目 次

1. 中国訪問	村 山 徳五郎	1
2. 「21世紀に向っての展望論」から — 中川代議士講演記 —	西 野 清	3
3. 現代洋行考	中 村 忠	5
4. <社中交歓>		
① 試験科目について	駒 村 裕	8
② 三次試験を控えて	尾 野 博 巳	8
③ 会計士補となって感ずる事	都 築 一 隆	9
④ 会計士補というカタガキをもつオトコの 最高に日常的な生活	安 義 利	10
5. 慶早会計士ゴルフ対抗戦	松 原 章 隆	12
6. 塾の近況報告	塾長室 広報課	12
7. 公認会計士三田会の有資格者の現況 (56年10月末)	西 野 清	15
8. 会員の異動 (56年1月～11月)		16
9. 編集後記	加 藤 晶 春	17

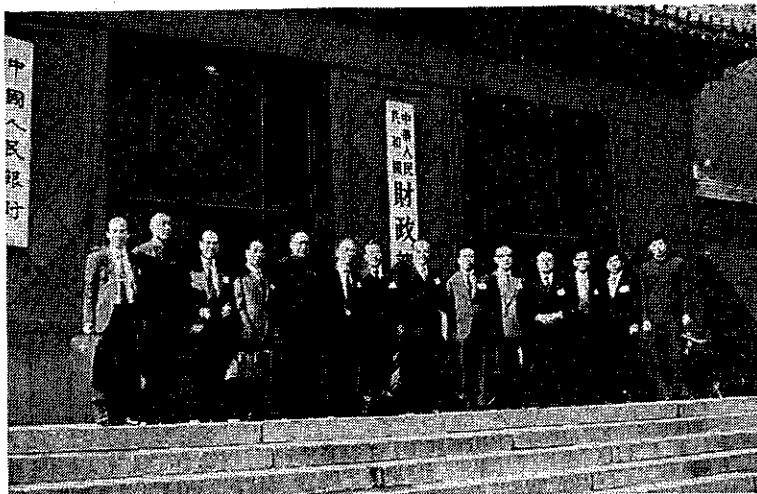
中 国 訪 問

昭30経済 村 山 徳五郎

去る10月19日から9日間、協会の訪中代表団の一員として、中国を訪問してまいりました。ご記憶の方も多かろうかと思いますが、昨年8月から9月にかけて協会と日中経済協会の招きで中国財政部企業会計・財務管理考察訪日団(団長、遅海濱財政部工業交通商業局副局長)が来日しました。今回の訪中は、それに対する中国側の答礼の意味があり、中国会計学会のお招きというかたち

にはなっておりますが、わが国での大蔵省にあたる財政部の肝入りで実現したといえましょう。

わたくしが訪中団に加ったのは、訪日団に日本の会計・監査事情を説明したり、接遇の任に当たったりしたためかと思われませんが、訪中団の滞日期間はほぼ1か月に近く、おのずと会務を離れての親愛の情が生れ、大阪空港での別離に際しては、いささか感概をおぼえたのを、今も忘れません。



財務部（大蔵省）玄関前にて。
看板前は川北会長。その向って左隣りが筆者。

それ故、遅さんや北京から杭州を経て上海空港を離れるまでお世話いただいた呉女史の元気な姿に再会したときは、何ともいえぬうれしさがこみ上げてきました。

ところで、訪中団の行事につきましては、川北団長が、直接 JICPA NEWS に筆を執られる由聞いておりますので、ここでは重ねては記しません。けれども、考えてみますと、公式行事（万里の長城の見物や西湖舟遊まで公式行事といえるかどうかは別ですが、過密なスケジュールのなかに、はじめから組み込まれておりました）以外に訪中団の行動というものは、なかったことに、いまさらのように気がつきました。わたくしにとってこの度の訪中ははじめての経験であり、他の例を知りませんが、いろいろ考え合わせてみますと、現在のところ中国の旅とは、どんな場合も、そういうものではないかと思われます。

さて、それはともかくとして、わたくしの見た中国というものが、具体的には、中国第一、第二の都市であったとはいえ、その人の多さには、びっくりしました。わたくしの受けた中国の印象は、この一事にとどまるとさえいえます。どの街もどの道も、人であふれております。車道は自転車の

大群に占領され、自動車はそれをかきわけるように進むほかありません。さすがに、優秀な日本製の車も、クラクションだけは半年もたない、というエピソードを耳にしました。

わたくしはもとより、中国の人口問題を専門的に論ずる知識も力もありません。それでも、いろいろなことを考えさせられました。突飛な発想と笑われそうですが、もし自分が中国の為政者だったら、

10億とも11億ともいわれるその龐大な人口をどうやって食べさせていけるかを考えて夜もねられないのではないかとさえ真面目に想像しました。機上から、あるいは車窓から垣間みた広大な国土も、わたくしの目にはそう肥沃そうには見えません。

北京では、故宮と呼ばれる王城のあとを見物しました。幾重にもかさなる城門のいちばん前面にあるのが例の有名な天安門です。その故宮のある意味でグロテスクとも思える壮大さ、壮麗さも、版図の広さもさることながら、統治すべき人の多さと無縁ではないのかも知れません。テレビなどで誰もが知っている天安門も、それに相対する広場を埋め尽す人の数（百万人が集まるといわれております）との関係で、必要不可欠の舞台装置なのでありましよう。このように、およそ中国という国を理解するにはその人口のもつ意味に着目することが先決であろうと、素人考えで合点した次第です。

次にもう一つ忘れられないのは、“文革”というものの悲痛さについてであります。訪中時に、それを直接話題にしたことはありませんが、それがいかに非文化的な暴力をふくむものであったかを物語る無残な痕跡が、ときに目に触れました。

中国は、未だその犠牲を回復していないのかも知れません。それは戦争にも似た政治的な事件だったので、ほんの十年ほど前のこの中国の歴史を前にして、わたくしには名状しがたいむなしさと悲しみの感情だけが残りました。

こんなことを書きつらねるときがありません。わたくしは、旧知の方々の好意につつまれながら国での雑事をまったく忘れて快適な日々を過しま

した。おいしい本場の中国料理とそれによくあう酒のうまさは、思い出すたびにわたくしを再訪へと誘惑します。けれども、公式訪問とあって、わたくしも無意識のうちに緊張していたのでしよう。帰国してから少しばかり疲れが出て、しばらく軽い風邪に見舞われました。

(56.12.5)

「21世紀に向けての展望論」から

— 中川代議士講演記 —

去る9月25日、私学会館で、当三田会の本年度の行事として、塾員たる中川秀直代議士（自民）を迎え、「21世紀に向けての展望」アメリカ視察を終えて——と題し講演会が催された。そこでこの中川代議士のメッセージをご紹介します、新しい時代への展望と日本および日本国民の使命を再認識することとしたい。

中川代議士を先ず紹介すると、昭和41年法学部卒、同年日本経済新聞社政治部記者、48年父故中川俊男代議士の秘書、51年総選挙で広島第二区より弱冠32才で最高点で初当選、54年総選挙では健斗空しく次点、55年総選挙で見事最高点で返り咲き、現在当選2回、37才の塾出身の若手議員のボーブである。また先般の商法改正案の国会審議に参画されその成立に尽力、ジャーナリスト国会議員連盟事務局長にも在任中で、国の内外を八面六臂飛び回っている福田派に所属する二代目代議士である。

因みに中川代議士が属する福田派は清和会の名で、福田赴夫元首相を会長とし、衆・参国会議員80名によって、「これからの日本・政策委員会」を編成し、昭和50年より本年迄「これからの日本」の主題で、第一版～1980年代への挑戦・第二版

祖国新生論・第三版～新エネルギー時代の開幕・第四版～激動下の祖国防衛・第五版～高令化社会への挑戦を表題に、監修福田赴夫で、都合5冊を出版し続けており、今後も続ける由である。

中川代議士の今回の講演も、これら5冊の書籍の内容を集大成され、アメリカ帰りの貴重な経験談を交え、政治・経済・軍事の内外情勢全般に亘って、実態論を軸に次の如く展開された。

① 日本の財政は、極めて重大な局面を迎えている。予算における国債依存度は27%台で、残高は82兆円に達し、西独（13%）の2倍、英国の3倍、米国の4倍に当る。これを国民一人当りの負担額に換算すると、実に70万円にもなる。因みに各種予算を国民一人当りに直すと、福祉＝8万、教育＝4万、公共事業＝6万、防衛費＝2万に対し、国債返済費は6万となる。この内の元本払35%、利払分65%に達する状況で、国を守る経費より借金返しの方が多し。これも第一次・第二次石油ショックのつけが溜りに溜った結果であるというのが実態で、一日も早くこの状態から脱却する必要がある。インフレを防止し、日本の政治を活性化するために、そして日本に新しい政治力を生み出すために、今や

行財政改革は絶対不可欠の要素となっている。

来年度は増税なき予算編成を軸にして、ゼロシーリングの方針に徹し、赤字財政建直しを第一課題とし、第二臨調答申の線で極力対応してゆく。

- ② 日本の防衛問題について、この際猛反省を加えたい。日米安保の基調は堅持しながら、陸海空の人員配置の面で、陸18万・海4.5万・空4.5万の陸中心の現状を見直し、空中心へ指向する方向も検討する必要がある。そして日本が防衛面で役割分担に積極的に取組む認識が要請される。日本が今後防衛に力を入れ、特別な配慮をすとしても、軍事大国を目指すのではなく、あく迄も専守防衛であり、少なくともGNP（国民総生産）の1%程度の防衛力を確保することが必要なのである。

米国からの圧力をかけた言動により、防衛力が増強されるのではなく、飽く迄も、我国の自主的な方針により、自らの国を自らの責任で守り抜く観点から今後対応してゆくことが要請される。

- ③ 第一次石油ショックで、一バーレル1.8弗の石油が一躍10弗に、第二石油ショックで14弗が30弗に上昇し、今日では一バーレルが35～36弗の域に達し、正に20倍に迄高騰し続けている石油価格に根ざされた現在の世界不況は極めて根が深い。

石油カルテルと資源ナショナリズムの中で世界情勢は一変しており、先進・開発途上国とも、苦しい立場に追い込まれ、経済成長に悩んでいる。

米ソの軍事力バランスが云々される今日の世界の政治情勢は正に緊迫下にあり、むづかしい側面が多い。政治と経済の両側面が、からみ合って世界的な事件に発展する心配もあるので、今日の時点では、今や「世界平和」を維持してゆく一点こそが最も重要である。この意味から



中川秀直先生（昭41.政）

も米ソ二国間の対話の窓口はとざされてはならない。

- ④ 来るべき21世紀は正に、資源エネルギー有限時代の到来で、資源が無限ではないことから、エネルギーの重要性を改めて再認識する必要がある。

石油依存から脱却するために、その代替エネルギーの開発に全力を傾注することが必要である。

特に日米協力による核融合エネルギー共同研究に着目しているが、これは30～40年先の完成を目途にしている。しかし5年先にでもこの実験成功が実るとなれば、世界のエネルギー事情の一大転機になるは必至であり、これに期待している。

この資源エネルギーの開発促進の意味からも21世紀に向っては、自由陣営の西側の力を先ず結集し、これを統一する世界平和への戦略の努力が極めて重要であり、このためには常に視野を世界全体の動きに着目しながら、人類の将来を考え、将亦、世界見識の中から、国内の当面の課題に打つ手も世界戦略の一駒として考え、それぞれ前向きに対応せねばならないのである。

- ⑤ 一方国内の最近の月例経済報告によると、ゆるやかな回復基調が期待されながら、8月統計にて、地価高騰による土地問題から公団住宅の建設の伸び悩みもあり、住宅着工率が前月比で

20%ダウンを示して心配であるが、今後の動きに着目したい。

- ⑥ 1975年に40億を超えた世界人口が、西暦2000年には60億台に達すると云われ、人口問題は今や、無視できない重要課題となっている。我国においても1億1800万人を抱えながら、今後共、活力のある高令化社会を築き上げねばならないのである。

高令化の話題として世界一の長寿者ということで、ギネスブックに載った鹿児島徳之島の泉重千代さんは116才に達しており、亦100才以上の長寿者が全国で1000人を超し、日本は今や世界一の長命国に迄なっている。昨年の簡易生命表によると、男性の平均寿命が73.3才、女性の平均寿命が78.8才で、高令化社会という問題も、今や日本では避けて通れない重大課題となっている。従って今後は、長期的視野に立って、この高令化社会に適応したさまざまな対応策を、適時適切に、うちたててゆかねばならない。

- ⑦ 日本は世界第二の大国であるという自覚と責任感を、今こそ改めて再認識し、自由世界の擁護のために貢献することによって、日本が自由世界から求められている責任ある役割りを果た

さねばならないのである。茲で改めて日本の役割りが問い直される必要がある。亦今後の経済成長のためには、出来るだけ国際摩擦は避けて世界経済全体の安定化をはかることに努力すべきである。

我国は今後共、先進諸国間の協調を図りつつ石油需給の安定確保を図ることが重要であり、次の主力エネルギーへのつなぎとして代替エネルギー価格が原油価格と見合うようになる迄の間、原油価格の値上に耐え得るような経済体質の強化に努めねばならない。そうしたことを踏まえつつ、わが国の産業構造を、徐々に転換していかなければならないのである。

以上がその大要である。

因みに、昨年の総選挙での塾員の当選者は合計で41名に達し、前回実績より7名増加している。

昨年参議院選では、この外に3名が当選した。この44名の内、自民党は33名、民社が4名、公明が3名、新自俱が2名、無所属2名となっている。(派閥別にみると、田中派12名、福田派8名、大平派5名、三木派・中曽根派各2名、中川派1名、無派閥3名である。茲に議員諸兄の今後の御健闘を期待してやまない。) (昭22経済 西野清記)

「現代洋行考」

昭18経済 中村 忠

1. フランダーズのハンバーガー

中世がそのまま化石になったと言われる小さな美しい街。ブルージュ。そこのノートルダム教会の尖塔に登ると、西フランダースの野原が無限に展がる。朝9時に「ホテル・ホリデーイン」を出て、グロウニン美術館、グルトフーズ博物館などを廻り、ついでにレース刺繍のお店を2、3軒覗くと、丁度お昼になる。「貴方、何にを喰べま

す」と聞かれる。「マクドナルドのハンバーガーがあるね、あれ、ゆこうよ。」「いやですよ、白耳義(ベルギー)まで来て、マクドナルドでもないでしょう。」「フランダースの野原を見たらう。あそこで放牧されている牛だ、あそこでとれた麦だ、期待しよう」結果は、かたちといい、味といい、上野広小路のマクドナルドと寸分違わぬものだった。

奥方に睨られました。

2. チェンジ、マネー、プリーズ

空港の銀行の窓口で、100 弗両替を頼んだ。得意顔で、英語を駆使して、10ポンドと5ポンドの紙幣が何枚、10ペンスと2ペンスと1ペニーの硬貨が何枚と、必要な金種を理解して貰うべく努力をする。全然通じない。銀行も私も苛々し始めた。奥方が、一寸退いてと言う。100 弗出して、“change, money, Please” という。お札が出て来た。その中から1枚抜いて、“coin, please” と言う。次ぎ大きなコインを2枚出して、“small, coin, please”。万事が終った。

小しゃくな奴め。

3. ようかん と ぜいかん

佐藤直子さんと山崎良子さんの2人の奥様たちが、アムステルダム税関でひっかかった。よど号事件があって間もない頃のこと、世界中の航空関係者が神経質になっていた時期のことである。

問題は山崎さんのハンドバックから出た一本の銀紙に包まれた軟体物質。旦那方とはいうと、自分の検査が終ったので、さっさとその場を離れて既に姿が見えない。

“ダイナマイト” と言っているように聞こえてくる。ここ一番、一心太助と思って、踏み出した途端、佐藤さんが銀紙をむいて、軟体物質を喰べ出した。税関吏は、ニッコリ笑って、

“オー、ジャパニーズ、フード”。

“イエス、ジャパニーズ、スキートケーキ”。

オメデトウ。

4. 万有引力

飛行機が成田を離陸し、雲の上に出るまでひたいをびたりとくっつけて、窓の外を眺めていた小学校4年生の孫息子が、振り向いて「おじいちゃま、飛行機はなぜ飛ぶの」。流体力学すなわち、上下の翼の面積のちがいが空気の流れの量を変える、

それが飛行機を押し上げる、それにスピードが加わって飛ぶのだと説明する。分ったような分らないような顔をしていた孫は「おじいちゃま、地球はなぜ浮かんでいるの」

飛行機なんか飛せるのではなかった。

5. 酔っぱらった赤ん坊

2組の息子の家族とハワイアン・リージェンシー・ホテルに宿った。一組の息子の家族と近所の桃山という日本料理店で昼食をした。子供のために、ココナッツジュースを頼んだ。

アルコール入っていないだろうね、と確かめた。“いえ、ガム島のホテルでも注文しましたが、大丈夫です” と嫁が言う。注文の品が来た。“幸ちゃん、おじいちゃまに少し頂戴”。

アルコール過敏性の私には、すぐ分った。

“おい、アルコール入っているぞ” 泡を喰った息子が赤ん坊を横かかえにして、洗面所へとんで行った。戻って来た三つになる赤ん坊の眼は、トロンとし、手足をバラバラと振り廻し、廻らぬ舌が一層ロロっていた。如何にも愉快そうである。弱り切った息子と、嫁の顔と、よっぱらった赤ん坊の顔を見較べているうちに、私も酔っぱらったように愉快になって来た。

6. 部屋の中の落とし穴

建直す前の羅馬(ローマ)のレオナルド・ダ・ヴィンチ・ホテル — “私は荷物の整理をしますから、すぐお風呂に入りなさい” という家内の言葉に従って、バスタブに漬った。だだっ広いバスルーム、全然窓がない。真夏のことである。むんむん蒸れて、バスというよりサウナ風呂である。天井に換気扇があった。そばに紐が垂れている。しめしめと早速引っ張った。廻らない。もう一度引っ張った。まだ廻らない。力が足りないのかと今度は力を入れて引張ってみた。ザーザーと小さな音が聞えるだけ。何んでえ、壊われた扇風機なんかつけて置きやがって。バスから上って、身体を拭いていたら勢よく、入口のドアが開いて、禿

頭の親爺が首を出した。ワアワア言っている。何を言っているのか、さっぱり分らない。アム、イケネー、緊急ベルを引っぱったんだ。しかも三回も念入りに、と思っただけで、気が動転した。

"I'm sorry, I, mistake. not at all. thank you very much. Good-bye. 親父をそとに押し出した。

奥から、家内が"どうしたの"。

その2, 3日あと、維納(ウイーン)のヒルトンホテルに移った。部屋に入っすぐ、テーブルにラジオカセットが組み込まれているのが目に入った。"貴方、ラヂオつけて下さい"と頼まれた。おい来た、と片っ端しからラヂカセのボタンを押した。今度はお姐さんが現われた。前回と違って御足労を謝し、しかるべき金額のチップを渡して御引取を願った。

倫敦(ロンドン)に移った。

まわりに危険な器物、装置のないことを確かめた上で、部屋に入った。

あゝ、それなのに、2, 3分程経ったら、今度、バケツとモップを持って、おぼさんが出て来た。一体どうなってるんだらう。

"今度は何にやったの"と家内に言われたが、今回に限っては、何にもやっていない。

ただ、ただ不思議である。寄りかゝっていた壁を離れた途端、家内の鋭い声が出た。

"部屋に入ったら、貴方は真中に居なさい"。何んと寄りかゝっていた壁の柱の真中に、バケツとモップを持った、おぼさんの絵のついた押ぼたんがあった。

7. ソーデアックのペンダント

Zodiac のペンダントというのを知っていますか。ソーデアックとは獣帯といふます。西洋の12支のことで。女性週刊誌の星占いに出ている生れ月の星、constellation (コンステレーション) 星座のペンダントのことで。羅馬(ローマ)を立つバスの中で、寺田さんの奥さんが、御主人に

文句を言っていた。どうやら御主人の言う尽になって、カメオのブローチを買い損ったのが原因のようす。

"奥さん、瑞西(スイス)で、ソーデアックのペンダントを買いなさいよ。アベあたりで売っている横顔を見せたカメオなぞ、日本へ帰れば、埼玉県の川越のデパートだって売ってますよ。ソーデアックのペンダントなら日本では売ってませんよ"。"それどんな物ですか、瑞西のどこで売っていますか"。"時計屋へ行けばどこでも売っています。金製で型押しと、型抜きがあります。6月生れなら、Twin と言えば双子座のペンダントを出して来れます。奥さん、貴女何月何日生れ。" "私は4月10日" "あゝそれなら sheep それで分らなければRAM (ラム) と言いなさい。オメガの製品はナウだけれど、ヨーロッパの女性が馴染んでいるのはどうやら、ローレックスの製品のようです。王冠の看板のあるブッヘラーの店に行ってください"。

スイスを出るとき、寺田さんの奥さんの襟元に牡羊座のペンダントが光っていた。そして寺田の旦那が私に最敬礼をした。

三田会からヨーロッパの紀行文の依頼を受けた。明治の初期なら、洋行も珍らしいだろうが、いまどき交通公社に代って、旅行案内でもあるまいと考えているうちに編集担当の森重さんから締切の催促を受けた。苦しまぎれに書いたら、東山魁夷の"白夜の旅"のようなリリズムに溢れた紀行文を書く積りが、こんな雑文になってしまった。お許し下さい。(昭和56年11月22日)



試験科目について

昭52経済
駒村 裕

現在の公認会計士制度では、公認会計士になるうとする者はいくつかの難関を突破しなければならない。この難関とは即ち国家試験のことである。国家試験はいくつかの科目によって構成されている訳であるが、それぞれの科目は、試験科目というものが常にそうであるように非常に無味乾燥なものである。しかし、これは試験に合格するという目的が前提となるためであり、それぞれの科目の内容を日常生活に対応させてみるとおもしろい時がある。例えば経営分析のなかに投資の選択というものがある。最も効率の良い投資を選択せよという意味である。これを次のような場合に当てはめてみる。同輩三人で酒を飲みに行くと、一軒目は食事がてら、二軒目は腰をすえて、三軒目は空腹を満すためラーメン屋という順序が良くある。この際、それぞれが一軒ずつ勘定を持つということもまた良くあることである。この場合投資の選択の理論によればラーメン屋の勘定を持つのが最も有利ということになる。しかし、この選択は同じ仲間と再度出かけないという条件がつく。再び同じ仲間と酒を飲みに行き、勘定の段で貴様は前回ラーメンだったから今回は高いところで払えということになると、前回の選択は決して有利であったとは言い難いのである。

ここで、あの選択の理論は条件が重要な要素であることを勉強する訳である。同じく原価計算に損益分岐点分析というものがある。これを自分の収入と支出に当てはめてみると、自分の収入が損益分岐点以下であることがわかる。どのようにして生活がなりたっているのかと自分でも不思議に

思うが、それを解明する手段としては監査手続のうちの一つかを行なってみる訳である。ケインズの有効需要の原理では消費は美德で貯蓄は罪悪である。少なくとも私の場合はこの原理は逆である。いくら消費を増やしても所得は増えず、貯蓄を怠れば後に泣きを見る訳である。役に立つ科目もある。法律科目がそれで、民法174条（1年以内の短期消滅時効）などは知っていて損はない。

以上のように述べてきたが一つだけ不思議なことは、これらの科目のなかに必ず所得を増すという目的に適合する理論がないことである。ひょっとしたらあるのではないかと思うが、もし存在したとしても本にして大勢の人に公開するような間抜けはないであろう。

三次試験を控えて

昭51商
尾野 博 巳

「ブー／」午前5時、目覚まし時計の音／顔を洗い、女房の入れてくれたお茶と、昨日焼いてくれたケーキを食べて机に向かう。スケジュール表を見て、今日は分析の計算練習を行なうことにした。

私が三次試験の勉強を早朝に行なうようになって以来、女房も私に刺激されたせい、私が机に向かっている間は、ドイツ語の勉強をやるようになった。

私は、昭和51年3月商学部を卒業した。大学当時は、辻村研究会で計量経済学を学ぶかわら、第一次オイルショック後、先進国の優等生として注目を集めた西ドイツ経済についての文献を読むために始めたドイツ語の勉強に明け暮れる毎日で

あった。従って卒業当時、「簿記」の「簿」の字も知らない私が、53年の二次試験に合格するまでには、辛い2年間の浪人生活を余儀なくされたのである。

そして今、人生最後の試験となるはずの三次試験が、もう目前に迫っている。二次試験の時もそであったが、半強制的な勉強程、嫌なものはない。そういう時はいつも、試験が終わったら好きなドイツ語を勉強したいと思う。しかし、大学を卒業してからの私のドイツ語の成果と言えば、ドイツ人と話す回数を積み重ねる事によって得たドイツ語に対する度胸以外に進歩のないところを見るとこの3年間を反省せざるを得ない。要するに、私にとってドイツ語は、苦しさからの逃避でしかなかったのかもしれない。

人間やはり、追い込まれ、半ば強制されないと勉強しないようである。少なくとも私の場合はそうである。これは、私がいまだPrimitiveな人間である証拠なのだろう。とにかく、今の私はこの事を認識して三次試験の準備に精を出すしかない。

午前8時、家を出て、隣の小手指駅で始発の準急に乗り換える。隅の方の席を確保し、鞆から、「委員会報告」の黄色いペーパーと赤鉛筆を取り出し、池袋までの40分間これを読み込む。

午前9時半、クライアントの事務所に到着。さあ、これからまた帳簿と伝票、そして監査小六法と睨めっこの1日が始まるのである。

『会計士補となって感ずる事』

昭和57経済（卒見込）
都 築 一 隆

私は、昭和56年度の公認会計士第二次試験に合格したばかりの、ホヤホヤの会計士補です。まだ経済学部3年在学中で、監査の仕事もパートで数日間やった程度なので、実務経験はほとんどない

に等しく、会社へ行っても右も左もわからないような状態です。

試験に合格したとはいえ依然として学生ですから、今までとは何ら変わらないようにも思えたのですが、少ないながら実際に監査の仕事をしたりと、また会計士補会の幹事として活動したりしていると、自分の周囲の環境が目まぐるしく変わっていき、未だに多少の戸惑いさえも感じています。最も驚いたのは、接する方々の数の多さです。何せ私自身が世間知らずなものですから、短期間にこれほど多くの方々と出会うと言う事は、これまでに経験がなかったのです。そう言う意味からも人間関係の重要さをあらためて痛感しました。

会計士補となって、特に会計士補会の幹事としての活動を通じて私が感じている事は、公認会計士制度が制度としてはまだ新しいものであるだけに、それ自体のもつ問題点・改善点も多くあるのではないかと、言う事です。私達に最も身近な実務補習制度を一つ取り上げてみても、改善点は多いように思われます。それだけに、出来上がった制度よりも形成途上の制度の方に魅力を感じています。

また、意外と公認会計士と言う職業が一般国民の認識の中に浸透していない、と言う事も感じています。商法改正によって公認会計士の職域が広がったにもかかわらず、二次試験の受験者数はここ数年漸減傾向にありますし、また公認会計士と税理士・計理士との区別すらつかない人達もたくさんいるように思われます。このため、広報活動によって公認会計士と言う職業を広く知ってもらう事も重要ですが、ただ財務情報だけではなく、一般国民が企業に対して最も知りたい情報について、公認会計士が関与していく事もこれからは必要となるのではないかと、思っています。

取り留めもなく感じるままに書いてきましたが、私自身のこれからのに対する不安感も小さいものではありません。しかしそれ以上に自分の選んだ道

は間違っていない、と信ずる気持ちも強いです。この気持ちをこれからのファイトに結びつけ、いろいろな事を学び、経験し、そして作り上げていこうと考える次第です。

「会計士補というカタガキをもつオトコの最高に日常的な生活」

昭52商
安 義 利

今日も帰りが遅い。なんとなくニウウツとなって一人シャワーを浴びる。^(注1) F E Nから今から15、6年前に流行った^(注2) デイドリームビリーパーが流れてくる。こんな日々を送るようになってから、早や一年が過ぎてしまった。思えば去年の今頃は良かったなあと一人溜息をつく。^(注3) 二次試験にパスしたときはまるで天下でもとったような気分であったのが、今やそういった思いにもならず、道行く人から^(注4) 「カイケイシホって何ですか？」と聞かれても、今は「ああ、それは公認会計士のタマゴですよ」と答える。そしたら、道行く人は「ふうんノタマゴなんですか」と分ったように言う。

朝8時半、これが僕の最も日常的な起床時間である。「くそ／＼ねむい」。目を閉じながら歯をみがく。顔を洗うとヤット目が八分開く。今日の仕事先は何処だろう。^(注5) 五井か、^(注6) 桶川か、まあいいやシゴトだもんネ。文句もいえないや。手にズッシリと重くぶらさがる^(注7) 調書カバンを憎みながら、満員電車に乗る。回りの人が迷惑そうに一ベツをくれる。「スママセン／＼降ろして下さい」悲痛な声をあげながらヤットの思いで乗換駅につく。又満員電車。溜息否吐息。今日も寝不足調書が重い。

「おはようございます。」事務所の諸先生方と駅にて待ち合わせる。「おはようございます。」

「諸先生方は皆元気だなあ」と一人ギモンを抱きつつ仕事先に向う。「おはようございます。」何事も礼に始まり、礼に終る。これだけが僕のトリエです。

「ヤスクんは^(注8) ハンカンビやってネ。」「ハイ」ハンカンビ、ハンカンビと。まず月次スイイ、そして^(注9) フッティング、^(注10) 突合、吟味、分析、検討、通査。「স্যくん、検出事項あった？」「いえ、とくにありませんでした」そりやそうだよネ、近代監査は適切なる内部統制を前提としておるのだから。ハハハハッ。通査オッケー。

午前・午後のジユウジツした仕事も終り、「失礼します。」といて事務所に戻る。

今日は何をして遊ぼうかな。麻雀でもするか。でも面子がそろうかなあ。^(注11) 「比呂」にでもいくか。それとも健康的に^(注12) ポルトにでも行くか。はたまた、^(注13) カノジョにでも電話して^(注14) ポテトクラブにでも行くか。色々思案するうちに事務所に戻る。居た居た、面子が揃いました。

「ジャラ、ジャラ、ジャラ」心持よい雀の鳴き声に今日も夜はふける。

そして、又、ボクは午前様。毎日毎日こんなことをしていいのだろうかと思いつつベッドに入る。なんとなく一人寝はわびしい。今日は電気毛布の温度を25°にして寝よう。明日は土曜日だ。思いっきり、遅くまでねよう。

こうしてカイケイシホという肩書をもつ男の最も日常的な1日は終る。

注1 F E N→ファーイーストネットワークの意味。米軍の極東放送である。

注2 デイドリームビリーパー→ザ・モンキーズの最もポピュラーな歌。某CMでリバイバルした。

注3 二次試験→公認会計士二次試験の意。巷では司法試験と並ぶ難関であるといわれているが……………。

注4 カイケイシホ→会計士補の意。二次試験を

パスした者に与えられる資格であり単に三次試験受験のためのパスポートにすぎない。

注5 五井→千葉県市原市にある地名。ここには一大コンビナートがあり、石油化学関連業種の工場が軒を並べている。東京より70分位かかる。

注6 桶川→埼玉県桶川市？。とにかく上尾の次の駅である。クライアント名は㊦。

なんとなくオケガワという名前がびったりとする町である。

注7 調書カバン→通常ジュラルミンでできている頑丈なカバンをいい、その中に過年度のワーキングペーパーを入れて仕事先に持参する。大会社になるとこれが三つも四つにもなり、一個の重さはおよそ20kg以上はあると思われる。これをもって、手が不自由になったという人もおり、今では恐ろしい狂器となっている。

注8 ハンカンヒ→反感日ではなく、販管費とかき、販売費及び一般管理費の略称である。

注9 フットィング→Footingの意。通常計算調べといわれているもので、電卓の調整に良い監査手続である。

注10 通査→Scanning といい、走査・熟視査ともいわれる。会計記録を通覧して異常項目や例外的事項を発見し、問題点を明らかにする

監査技術である。通査によれば時間を節約しつつ監査の焦点を発見しうるがこれを有効に活用するには監査人の高度の技能が必要とされる。——日下部与市、新会計監査詳説より——

しかし、最近、調書をみるとこの監査技術を多用しているゴジンがいるが、高度の技能が必要とされるというところに疑問を抱かざるを得ない。

注11 比呂→六本木にあるスナック。ボクが学生の頃、所属していた団体の溜り場。

なんといっても、ギョーザとラーメンがうまい。

注12 ポルト→六本木にある某映画会社の経営するメンバーズアスレチッククラブ。

トレーニングコースは1,300円である。

注13 カノジョ→通常、遊び友達ともいう。

僕は多岐川裕美みたいな女の子がいい。これはあくまで自分の立場というものを度外視しての話である。

注14 ポテトクラブ→一見いや一読すると、早稲田の学生、OBの溜り場のように思えるが、実は赤坂にあるディスコである。生バンドが入っていて、最近バンドの質が落ちてきたのが気になるが、チークタイムの長さでは近辺随一を誇る。予算はお二人様ポトルキープで1万2千円見当。

総会及び新年宴会のお知らせ

第5回定時総会及び新年宴会が、下記によって開催されます。塾からも数名の来賓がお出で下さることになっておりますので、会員各位は、ご予定等お繰り合せの上、多数ご出席下さるようお願いいたします。

記

日時：57.1.12（火）

18:00 ～ 総会

18:30（見込み）～20:00 立食パーティ

会場：銀座「交詢社」（総会、新年宴会とも）

（中央区銀座6-8-7）
電話 571-4951

会費：無料

来賓（予定）：石川忠雄塾長

小島三郎教授（商学部長）

会田義雄教授

高島正夫教授

——（事務局）——

慶早会計士ゴルフ対抗戦

昭39商 松原章隆

このような会があるべきだという皆の胸のうちを読み取るような企画が実現しました。会計士にとって今やゴルフクラブはソロバン以上に触れる機会が多いという、必須科目の様相を呈してきましたが、この科目に自ら第一人者と自負する慶応、早稲田両校出身の会計士が集い、第1回目の対抗戦が行なわれました。と



(当日参加の面々)

ところは都留カントリークラブ。山梨県に所在する丘陵コースですが、10月31日というシーズン最中の土曜日に会が持てたのは藤井、西谷両先生のメンバーコースであったからです。

両校合せて参加者は21名。そうそうたる顔ぶれによる競技は盛り上がり、舌戦として試合終了後の懇談会にまで持ち越された次第です。

結果としての各人のスコアは、アンダーハンディのため、ここで特に記載を省略しますが、団体戦の結果は、コース案内に説明の「強引な攻め

はOBあるいはフェアウェイバンカーにつかまりやすく逆にスコアを崩す」の通り、1打差で慶応大学の勝ちと決まりました。

なお、ベストグロスの名誉も、塾の川口勉先生がえられ、まずまず、慶応側の全面的勝利という感の強い第1回対抗戦でありました。従って、次回も慶早ゴルフの名を以て早稲田側に召集をかける権利を持ったわけで、次回のこの会(昭和57年3月27日・茨城ゴルフクラブで行なわれる予定)には、更に多数の参加を期待しております。

塾の近況報告

塾長室広報課

石川忠雄塾長再任と新常任理事

任期満了に伴う選挙の結果、石川忠雄君が塾長に再任されたのは昭和56年5月のことであったが(任期は昭和56年5月28日から4年間)、その後新常任理事に次の諸君が選任されている:

佐野 勝男君 労務担当

辻岡 昭君(重任) 学務(諸学校)・経理・職員人事担当

西村 皓君 学務(大学院・学部・研究所・学生)担当

田村 茂君 学務(研究教育情報センター・国際センター・通信教育等)担当

松本 三郎君 企画・渉外等担当

佐々木春雄君 財務担当

私立大学が厳しい状況の中におかれ、また塾としては昭和58年に創立125年を迎えるこの多端な時期に、石川塾長と新常任理事は、いま精力的な活動を始めている。

理工学部の開設

昭和56年4月、塾の工学部は理工学部として生まれ変わり、新しいスタートを切った。今世紀以来の科学技術の急速な進歩は人類に空前の物質的豊かさをもたらすと同時に、さまざまな困難をも投げかけているのが現実である。この種の問題のうちの多くの部分は、将来における科学技術の新たな発展によって解決されるべきものであろうが、そのためには理学部門と工学部門との、より緊密な協力関係が不可欠であり、自己の専門とする分野の知識だけでなく、関連する諸分野の知識と、理工学一般についての十分な基礎学力を持った卒業生こそが要請される所以でもある。したがって理学部門のうちでも最も基幹的と考えられる数学、物理学、化学の三学科を新設し、既存の機械工学、電気工学、応用化学、計測工学、管理工学の所謂工学系諸学科に加え、新たに理工学部を設立することになった訳である。なおこのことは、福沢先生が建学の当初から物理学をもって慶応義塾の学問の基礎としたいとされた念願を実現したものと云えよう。

新設の理工学部は、理系と工系の諸学科が単に併置されたものではない。そのみか、教育と研究のそれぞれにおいて相互に協力、補完し合い、理系、工系の両者が一体化した学部として、より活潑な研究活動とより充実した教育を目指したものであることが著しい特徴となっている。それともう一つは、理工学部新設に当たって、従来の学部総定員一学年当たり840名をそのまま据え置き、一方で広く超一流の新設学科のためのスタッフを塾に招聘して、より密度の濃いカリキュラムを編成したことも特筆すべきことであろう。

理工学部の開設に伴って矢上キャンパスには二つの大きな建築工事が行われた。一つは大小の12教室、玄関ホールなどをもつ教室棟で、これは昭和56年7月に既に竣工した。もう一つは教育研究実験棟本館で、これは明春には完成の運びとなる

予定である。

文学部に人間科学専攻新設

昭和56年度より塾の文学部に新しい専攻が設けられた。それが人間科学専攻であり、本年度は二年生のみ約200名が籍を置いている。

よく云われることに、所謂物質科学の進歩に比べて、現代世界における危機の主要なものの一つとして“人間に関する科学”の立ち遅れがある。この分野には、研究・教育活動に実証的要素を含むものが多く、カリキュラムの上でも、調査、実習、実験、資料解析演習などを設けることが要求され、こういったことに対応するために、人間を総合的に把握し理解することを目指す専攻として、社会・心理・教育学科のなかに人間科学専攻が設立された訳である。

もちろん、文学部の他の専攻と等しく、専攻分けされるのは日吉から三田に移る二年生になるときであるが、人間科学専攻では既存の専攻の枠をこえて横断的に人間の総合的把握を試み、行動科学的アプローチと人間学的アプローチを有機的に結合させ、学際的な研究と総合的な教育を行おうとしている。具体的には、人間科学の基礎、人間科学の諸問題、人間科学の研究法、人間科学演習、現代社会と人間などの科目を学ぶことになる。

なお、将来を展望すると、この専攻が充実した内容を整えたときには、人間科学科なり人間科学部なりに発展すべきものと期待されている。

法学部でも推薦入試を実施

理工学部が続いて、法学部でも推薦入試を実施し、昭和56年4月にこの制度による最初の入学者を受け入れた。

この制度は、全国の高校のうちから、今までの実績と地域的な事情を勘案して、法律学科、政治学科別にそれぞれ約100校を選定して推薦かたを依頼するものであるが、最低必要条件に加えて、

“高校在学中、課外活動または学外活動のなんらかの分野で優れた能力を発揮した個性豊かな者”の推薦を要請していることが極めて注目される特徴となっている。

選考は書類審査とたっぷり時間をかけた面接によって行われたが、既に前年昭和55年の9月には法律、政治とも87名ずつの、推薦されてきた者全員の入学許可が決まっていたものである。

塾の野球部は、ある意味では目下のところ不振に喘いでいる。しかし、一年生ながらレギュラー選手となり、春の六大学野球リーグではホームラン1本、秋には対東大戦で2打席連続ホームランを放って気を吐いている上田和明君 — 彼もまたこの推薦入試による入学者である。

因みに昭和57年度推薦入学者としては、やはり推薦された者全員の法律学科90名、政治学科87名が内定している。

新図書館の完成

三田の山で新しい図書館の建設工事の始まったのは、昭和55年2月のことであつたが、今ようやく完成し、去る12月8日に塾への引き渡しが行われた。その後、100万冊を越える図書の搬入など内部の整備を行ったうえ、新年度の開始に合わせて4月にオープンの予定である。

新図書館は地下5層地上7階建てで塾員楨文彦君の設計になる現代建築の最たるものであり、総工費約35億円をかけて行われた。地下は殆ど書庫で、1階にはレファレンスルーム、2～3階は閲覧室、4階は総合資料室、5階は情報処理室や貴重書閲覧室、6～7階は事務室や機械室がある。内容から云っても規模から云っても、正に大学図書館としては日本一を誇るものとなる。

また、一階入口ポーチには、これも塾員飯田善国君の作になる A Petal of Knowledge (知識の花弁) と名付けられた彫刻が置かれ、この新しい図書館のシンボリックなモニュメントとなっている。

いる。

“幻の門”の修復

“幻の門ここすぎて……空の蒼海の碧見はるかす三田の台” (堀口大学) に登った塾員には、図書館の八角塔を見上げる所に位置する幻の門は懐かしいものの一つであろう。しかし、長い年月の間には自然に考朽化も進む。そこで夏休み明けに修復のための工事が行われ、去る11月に、写真その他で可能な限り元通りに近い姿に修復された。戦後に二回目の修復である。

普通部小体育館等の竣工

去る9月、普通部の体育館南側で進められていた四つの建物が竣工披露された。先ず小体育館。赤煉瓦と白壁のコントラストの美しい鉄骨鉄筋コンクリート造り2階建ての建物で、柔道場や小体育室、更衣室などから成っている。隣接して射場と的場をもつ弓道場、それに倉庫と部室である。また情緒面も考慮して緑の小庭園も備わった。こういった環境の中で、普通部生が今まで以上に伸び伸びと体育に励むことが期待される。

創立125年記念事業準備室の設置

わが国最古の私学としての慶応義塾は、四半世紀ごとに福沢先生建学の原点に立ち返り、明日への指針を見つめ直す節目としての行事を行ってきた。

塾は昭和58年に創立125年を迎える。これに伴ういろいろな記念事業が現在検討されようとしているが、その準備事務を円滑に行うための創立125年記念事業準備室(室長鎌田義郎君)が先ごろ設けられ、去る11月1日、塾監局三階の一室に真新しい看板が掲げられた。

常に私学のリーダーとして時代を先取りしつつ歩んできた塾としては、塾員各位の結束した協力にも支えられて、これら記念事業を完遂したいと

考えている。そうすることこそが、長い伝統を培い、守り続けてきた慶応義塾が、将来にも真にその存立の意義を問い続けることになるからである。

全国高校生小論文コンテスト

この小論文コンテストは、小泉信三没後10年を機に、全国の高校に在学する生徒を対象にその作文能力の向上を目的として始められた。今回は第

6回になり、去る9月10日締め切りまでに応募のあった94篇について選考が行われ、その結果、第一席（小泉信三賞）には札幌北高校二年の青山仁美君の“20年後の自画像”が選ばれ、以下、次席一名、佳作三名が決定した。表彰式は1月10日の福沢先生誕生記念会の席上で行われるが、作品は“三田評論”一月号に全部掲載される予定である。

公認会計士三田会の有資格者の現況

(昭和56年10月末)

I 公認会計士・会計士補の全国版の現況

(1) 公認会計士有資格者数

試験別	合格者数	死去数等	現在数
① 3次試験	5,102	314	4,788
② 特別試験	1,042	306	736
③ 特例試験	1,204	177	1,027
小計	7,348	797	6,551

(2) 会計士補有資格者数

① 2次試験合格者総数（士補資格者）	7,571
② 2次合格者→3次合格者外	5,233
③ 2次試験合格者現在数(士補資格者)	2,338

(3) 日本公認会計士協会登録者数

① 公認会計士登録者現在数	6,429
② 会計士補・登録者現在数	1,905
③ 登録者現在数小計①+②	8,334
④ 監査法人・登録者現在数	68
⑤ 監査法人内の公認会計士数	2,121

(社員1,073)
(職員1,048)

II 慶応義塾出身公認会計士数の現況

資格別	全国数	慶応義塾出身数	全国比率
① 公認会計士登録数	6,429	451	7.0%
② 会計士補登録数	1,905	262	13.8%
③ 合計数	8,334	713	8.6%

III 慶応義塾出身公認会計士数年次別

種別 年次	公認会計士		会計士補		合計数	
	慶応出身者	全体比	慶応出身者	全体比	慶応出身者	全体比
52 / 8月	258	4.8%	約240	10.8%	498	6.6%
53 / 12月	311	5.6%	約250	10.8%	561	7.1%
54 / 9月	331	5.8%	285	12.7%	616	7.7%
55 / 6月	360	6.2%	284	12.4%	644	7.9%
56 / 6月	418	6.7%	269	12.9%	687	8.3%
56 / 10月	451	7.0%	262	13.8%	713	8.6%

前報告後の公認会計士の逝去は2名である。

① 田中芳治(昭3経済)77才 登録番号No.170

② 宮脇 實(昭31経済)57才 登録番号No.1031

茲に謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

IV 慶応義塾出身公認会計士登録順一覧

公認会計士 登録番号順	人数	累計数
1 ~ 500	10	10
501 ~ 1000	10	20
1001 ~ 1500	13	33
1501 ~ 2000	14	47
2001 ~ 2500	17	64
2501 ~ 3000	19	83
3001 ~ 3500	10	93
3501 ~ 4000	7	100
4001 ~ 4500	28	128
4501 ~ 5000	34	162
5001 ~ 5500	53	215
5501 ~ 6000	61	276
6001 ~ 6500	70	346
6501 ~ 7000	60	406
7001 ~ 7301	45	451
登録現在数計		451

V 公認会計士三田会加入の現況

(1) 公認会計士関係(慶応出身)

① 東京会所属公認会計士数	391
② 東京会以外(地方会)所属会計士数	60
③ 公認会計士全国数	451
④ 三田会加入・東京会所属数	191
⑤ 三田会加入・地方会所属数	30
⑥ 三田会加入者合計数	221
⑦ 三田会未加入・東京会所属数	200
⑧ 三田会未加入・地方会所属数	30
⑨ 三田会未加入者合計数	230

(2) 会計士補関係(慶応出身)

① 三田会加入・東京会所属数	46
② 三田会加入・地方会所属数	5
③ 三田会未加入・会計士補数	211
④ 会計士補全国数	262

(昭22経済 西野 清調へ)

◎ 会員の異動 (56年1月~11月)

1. 入会

氏名	卒業年	学部	資格	事務所	〒	住所	電話
奥野雅英	昭53	商	JA	監査法人 朝日会計社	158	世田谷区用賀2-28-9 中西マンション306号室	708-0075
木崎博	昭56	経	JA	(勤務先) 三菱商事(株)	277	柏市加賀1-10-1	0471 72-3538
平野直明	昭48	商	JA	新星監査法人	670	姫路市五軒邸4-103	0792 23-7930
石塚伸	昭51	商	JA	デロイト・ハスキ ンズ・アンド・セ ルズ公認会計士 共同事務所	153	目黒区上目黒3-11-12 伊藤方	792-6178
小関源一	昭54	経	JA	監査法人 加藤事務所	336	浦和市領家6-20-7	0488 32-7753

2. 退 会				長 坂 敬 史	56年 2月
(氏 名)	(資格)	(退会年月)		花 井 孝 一	"
堀 成 一	CPA	昭和56年 3月		榛 山 栄 一	"
綿 貫 義 昭	"	"	3月	福 島 優 子	"
宮 脇 實	"	"	4月 (死亡)	計	14名
宮 川 芳 雄	"	"	11月		

3. 資格変更 (第3次試験合格)

(氏 名)				(合格年月)	市 川 義 見	56年 7月
井 原 實			56年 2月	加 藤 和 彦	"	
今 村 猛			"	唐 沢 洋	"	
加 藤 武 仁			"	木 村 享 司	"	
河 野 光 雄			"	武 尾 亨	"	
倉 島 一 郎			"	田 中 清 吾	"	
佐 藤 勝			"	鐵 中 義 正	"	
玉 沢 健 児			"	中 川 純 一 郎	"	
手 塚 真 佐 子			"	中 元 文 徳	"	
藤 間 秋 男			"	根 本 司	"	
長 沢 敬 一			"	村 山 文 夫	"	
				森 田 栄 一	"	
				計	12名	
				合 計	26名	

編 集 後 記

遅れに遅れた会報第6号を、お届け致します。1980年9月発行の第5号よりかぞえ、1年3ヶ月ぶりの発行となってしまいました。この間、誠意と寛容さをもって、会費の納入を続けられた会員の皆様に、世話人一同、深甚なる感謝を捧げるとともに、自らの怠慢を深くお詫び致します。

今回の会報は、従来よりの体裁を若干変更致しました。まず、会報は会員の為の情報誌であるべきとの立場から、「塾の近況」及び「会員の變動」を、また会員の交歓誌であるべきとの立場から「社中交歓」を新設しました。このシリーズは、今後も継続して掲載する予定です。

質量ともに、いまだ不十分な会報ですが、号を重ねることに進化すべく、編集担当者一同努力する所存です。

(昭49商・加藤晶春)

昭和56年12月20日発行

編集人 森 重 栄

発行人 西 野 清

発行所 公認会計士三田会

東京都千代田区霞が関3-2-5

霞が関ビル第3202号室

電話 03(581)6281